

船の事故	発生日	発生県	船舶種類	事故形態
	3月22日（火）	福岡県	その他	単独衝突
	3月24日（木）	福岡県	貨物船	乗揚
	3月26日（土）	大分県	作業船	運航不能
人の事故	発生日	発生県	事故区分	事故内容
	3月22日（火）	福岡県	マリレ以外の海浜事故	海中転落
	3月23日（水）	福岡県	マリレ以外の海浜事故	海中転落

2週連続！ 係留中の船舶流出海難発生

【事件事例】

令和4年3月26日、出港準備中のフェリーから左舷側に無人の作業船（長さ約10メートル）等が3隻連結された状態で漂着している為、出港出来ない旨通報があった。海上保安官が漂流船の船名等から所有者を割り出し、船舶の有無を確認するよう連絡を取ったところ、係留していた係留ビットが損傷し、作業船等が3隻とも見当たらず、流出していたことが確認されたもの。

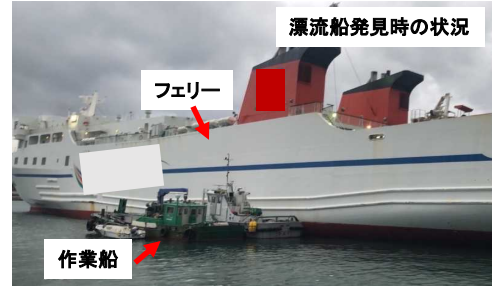
所有者に、流出の経緯等を確認したところ、前日1000頃、作業船の船首と船尾から係留索を1本ずつ、定係地の浮桟橋に設置された係留ビットに取ったが、以後、強風が吹く予報であったものの、係留状態の確認を行っていなかったことが判明した。

なお、流出した原因は係留ビットの老朽化により強風に耐えきれず、係留ビットが損傷したために発生したと推定される。

（暴風、波浪警報発令中）

【問合せ先】

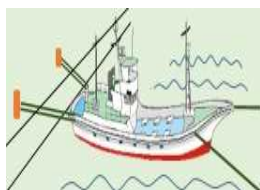
第七管区海上保安本部交通部 安全対策課長 浦川
安全対策調整官 川部
Tel : 093-321-2931（内線2640）



●流出防止措置

・最新の気象情報の入手

荒天が予想される場合は、早めの対応が肝心です。荒天になってから係留状態の確認で海に近づくのは海中転落等の恐れがあり大変危険です。ニュース、海の安全情報等から、最新の気象情報入手し、早期に流出防止措置を講じましょう。



・係留状態の点検・強化

定期的に係留ロープの傷みがないか、係船具が損傷していないか等、係留状態の点検をしましょう。また、荒天が予想される際は、係留状態の異常の確認だけでなく、増しもやいや防舷物の追加等、係留状態の強化を行いましょ。

荒天により風潮流の影響を大きく受けそうな場合は、影響の少ない場所へ移動させるか、安全な場所への陸揚げ保管を検討しましょう。

・船舶以外の流出にも注意

岸壁付近に陸揚げ保管されているカヌー、SUP（スタンドアップパドルボード）、手漕ぎボートや岸壁付近に置いてある漁具や資材等であっても、荒天が予想される場合は、必ず保管状況を確認し、必要であれば、流出防止措置を講じましょう。



船舶等の流出海難は、時に衝突や乗揚等、甚大な二次海難につながる可能性もあります。また、事件事例のように、二次海難にならなくても、他の経済活動を止めてしまうケースもありますので日頃から係留状況及び気象海象の確認を心掛けましょう。

最新の気象・海象については、右の二次元コード（海の安全情報）をご覧ください。

<https://www6.kaiho.mlit.go.jp/07kanku/kisyuu.html>

